

第1課
7月6日



神は創造された

暗唱
聖句

「貧しい者をしえたげる者はその造り主を侮る、乏しい者をあわれむ者は、主をうやまう」 (箴言 14 : 31、口語訳)

「弱者を虐げる者は造り主を嘲る。造り主を尊ぶ人は乏しい人を憐れむ」 (箴言 14 : 31、新共同訳)

今週の
聖句

創世記 1 章～3 章、使徒言行録 17 : 28、詩編 148 編、詩編 24 : 1、創世記 4 : 1～9、マタイ 22 : 37～39、黙示録 14 : 7

安息日
午後
6/29

今週のテーマ

あなたはこれまでに、何か（芸術品、工芸品、食事やそのほかの創造的なもの）を作り出そうと努力したのに、結局、それを壊されてしまったり、それをあげた人に受け取ってもらえなかったりした経験があるでしょうか。もしそんな経験があるなら、神が経験されたことをあなたもほんの少し味わったのかもしれない。それは、神がこの世を創造し、人間に命を与えられたのに、結局、その被造物が罪によって壊されるのを御覧になったときのことです。

聖書は、この世が注意深く創造され、造られたものは「極めて良かった」と記しています。神が御自分の被造物についてどうお感じになったのかは、創世記 1 章と 2 章の記事の中にあられています。私たちはこのような背景に即して、創世記 3 章における墮罪の物語と、神が自ら造られた人間と対峙なされたときの悲嘆を読むべきです。

意外なことに、何千年にもわたる罪、暴力、不正義、あからさまな反逆にもかかわらず、私たちの世界は、神が愛するものであり続けています。そしてさらに意外なことに、神はこの世を贖い、再創造する計画を始動させる一方で、私たち信者に、その壮大な計画を実行するうえで役割を与えておられます。確かに、私たちは神の恵みの受け手ですが、受け取ったその恵みのゆえに、共同作業員として主とともになすべき働きを与えられたのです。なんと厳粛で聖なる責任でしょう！

この地球とその上にあるすべての命、私たち自身の命とその命を用いて行うすべてのこと——つまり、私たちの存在は神から始まります。なぜなら、「我らは神の中に生き、動き、存在する」(使徒 17:28) からです。

「初めに、神は天地を創造された」(創 1:1) ——聖書の物語はここから始まります。そして、神が言葉によって地球を創造されたという事実は、私たちがまるで想像もつかない力と過程を暗示しています。

それにもかかわらず、神は遠くから創造なさったわけではありません。神は深く関与されました。とりわけ、最初の人間をお造りになったときがそうでした(創 2:7 参照)。

問 1 最初の人間の創造に関する物語(創 1:26～31)を読んでください。この記事は、神について、人間についてどんな重要なことを教えていますか。

自然の中で時間を過ごし、神の被造物に目を向け、その中に創造主の御品性を垣間見ることによって、私たちは神についていろいろ知ることができる、としばしば言われてきました。しかし私たちはまた、この世界がどうなるように神がお造りになったのかを、神御自身に対する私たちの理解を吟味することによっても垣間見ることができます。例えば、神が秩序の神であられるなら、私たちは彼の被造物の中に秩序を見いだすはずです。あるいは、もし神が創造性の神であられるなら、私たちは、彼が造られた世界の中に信じがたい創造性の実例を見いだしても驚くべきではありません。

同様に私たちは、神が関係の神であると信じています。ですから、神がこの世界を組み立てられた仕方の中に、私たちは中心的要素としての関係を見いだします。神はこの世界の一つひとつの要素を、ほかの被造物との関係の中で創造されました。神は関係的調和の中に動物を造られました。また人間を、御自分との関係、人間同士の関係、ほかの被造物との関係において造られました。

さまざまな意味で、神に対する私たちの理解は限られています。この世がどうあるべきかを考え直すうえで、私たちが神の御品性について理解できることをきっかけにするべきです。

◆ 罪による荒廃が明らかであるにもかかわらず、この世界を神の御品性の反映として見ることは、あなたが世界を理解するうえでいかに助けとなりますか。

エデンを恋しく思うことは簡単です。神がアダムとエバの住まいとして造られた園についての簡単な説明の中には、私たちの心にあこがれの気持ちを引き起こす何かがあります。そのような世界がいかに機能するのか、私たちには理解できないかもしれませんが、それを体験してみたいと感じます。

神は、満足感や十全感も抱かれたようです——「神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」（創1:31）。神は、美しくかつ機能的なものを造られました。それは、形と実用性双方のデザインにおいて申し分ありませんでした。活気と色彩にあふれていただけでなく、命が増え広がるのに必要なあらゆるもので満たされていたのです。創造の途中にあるこの世界が「良かった」と、神がつくづく眺められ休止されたのも不思議ではありません。

問2 創世記1章を読んでください（1:4、10、12、18、25、31参照）。「神はこれを見て、良しとされた」という言葉が繰り返されています。どういう意味だとあなたは思いますか。

人が罪に堕ちてからずっとあとに書かれたにもかかわらず、聖書は、ヨブ記38章から41章、詩編148編など、自然界に対する称賛であふれています。そして私たちは、これらが最初に造られた世界、罪以前の世界を少し振り返って書かれたものではないことを忘れてはなりません。これらの文章は現在時制で書かれており、私たちの世界で今も明らかな良さを称賛しているのです。

イエスもまた、神の善良さと配慮の例を自然界から示し（例えば、マタ6:26、28～30参照）、私たちが神に信頼すること、私たちを取り囲むさりげない贈り物に（驚きの気持ちで）感謝することを勧められています。もし私たちが目を開き、被造物の不思議に目を向けるなら、自分たちが創造主から驚くべき賜物を与えられていることがわかるでしょう。試練のさなかにあっても、私たちの応答は、賜物の与え主への感謝と謙虚な服従であるべきです。

天地創造を祝い、神の国の到来を待ち望む私たちセブンスデー・アドベンチストは、この世で目にし、経験する美、喜び、良さが、私たちがかつての世界の姿や再び実現する世界の姿の片鱗であると気づかねばなりません。

◆ 自然界について、被造物のすばらしさにとりわけ感謝していることは何ですか。日々の生活で、自然界のすばらしさから、どうしたらもっと主を知ることができるでしょうか。

聖書の記録によれば、エデンの園と新しく創造された地球は豊かな場所であり、命が増え広がるように、とりわけ人間が楽しく過ごせるように造られました。

しかし、神は最初の男女（と彼らのあとに続く私たち）に、被造物の中で果たすべき役割をもお与えになりました。アダムとエバがこの新しい世界で特別な地位を占める予定であったことは、（神の創造の仕方からだけでなく）すぐに明らかになります。

アダムには、動物や鳥に名前を付けるという仕事がまず与えられました（創2：19参照）。次に、神御自身からの祝福として述べられているもう一つの役割が与えられました——「神は彼らを祝福して言われた。『産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ』」（同1：28）。

問3 創世記1：28と2：15を読み比べてください。あなたなら、人間の職務内容を1、2行でどのように記しますか。

キリスト教史の中で、創世記1：28は、自然界を破壊するほど開発するためのお墨付きとして、あまりにもしばしば、ある人たちによって利用されてきました。確かに、この世界が人間の生活、利益、楽しみのために創造されたことは明らかです。しかし人間の責務は、創世記2：15の言葉によれば、「人がそこを耕し、守る」ことなのです。

私たちが管理者の務めについて語る時、最初に考えるのは、しばしばお金のことです。しかし、聖書の中で管理者の務めとして最初に命じられているのは、神が創造し、私たちに託された地球を守ることです。アダムとエバへの命令も、地球が彼らの子どもたちや未来の世代と共有されることを見越してのものでした。この世界の最初の計画では、創造された世界は、全人類にとっての命と善と美の源としてずっと続き、アダムとエバはそれを守る大きな役割を持つことになっていました。

地球は依然として主のものですが（詩編24：1参照）、私たちは神から与えられたあらゆるものの管理者になるよう、召されています。墮落した世界では、管理者としての私たちの責任は一層大きい、と結論づけられるのかもしれませんが。

◆ 墮落した世界で、地球の管理者であるというのは、あなたにとってどのような意味がありますか。この責任を自覚することで、その日暮らしをするあなたの生き方は、どのような影響を受けますか。

神が地上のほかのものには与えず、アダムとエバだけにお与えになった一つのもの、それが道徳的自由でした。彼らは、植物や動物や木々がなりえない形で道徳的存在だったのです。神はこの道徳的自由をととも重視されたので、御自分の民が不服従を選択する可能性をお認めになりました。神はそうすることで、愛と自由意志に基づく人間との関係というより大きな目的のために、御自分が創造されたあらゆるものを危険にさらされたのでした。

しかし、破壊者もいました（この道徳的自由は天使にもありました）。その破壊者は、神が創造された良い世界、完全な世界を破壊しようと企て、そのために地上における神の特別な被造物（人間）を用いようとして、悪魔は蛇を通して語ることで、神が提供してくださっていたものの完全さや十分さに疑問を呈したのです（創3:1～5参照）。最初の誘惑は、神が人間に与えてくださっていたものよりも多くを欲しがらせ、神の善良さを疑わせ、自分自身に頼らせることでした。

その選択と行為によって、（神が意図されたように）被造物にとって不可欠であった関係が破壊されました。アダムとエバは、彼らのために意図された創造主との関係をもはや持てなくなったのです（創3:8～10参照）。この2人の人間は、自分たちが裸であり、恥ずかしい状態であること、また互いの関係が修復できないほどに変わってしまったことに気づきました。彼らと地球のそのほかのものとの関係もぎくしゃくし、破綻したのです。

問4 創世記3:16～19を読んでください。これらの聖句は、人間と自然界の関係が変わったことについて、何を教えていますか。

罪の現実のゆえに、アダム、エバ、そのほかの被造物にとり、突然、生きることは難しくなりました。罪の結果は現実的で、特に人間と人間関係に影響しています。ある意味、私たちは創造者なる神から離れています。いろいろな意味で、私たちの家庭も影響を受け、他者との人間関係は、しばしば難題です。自然界や、私たちが住んでいる世界の中においても、私たちは苦勞しています。私たちの人生とこの世界のあらゆる側面は、罪によって生じた破綻を示しています。

しかし神は、世界がこうなるように創造されたわけではありません。創世記3章の「呪い」は、神が私たちの世界を再創造し、罪によって破壊された関係を修復するという約束とともに与えられています。私たちは、罪と、罪の影響と戦い続ける一方で、この世界の本来の良さを維持し、神がこの世界に対して持つておられる御計画を私たちの人生で実現するようにと召されているのです。

罪が出現してから、この世界がさらに破綻するのに時間はかかりませんでした。^{わた}妬み、誤解、怒りがきっかけとなり、最初の一組の兄弟が最初の殺人に巻き込まれました。神がカインに、彼の犯した罪についてお尋ねになったときの彼の答え——「わたしは弟の番人でしょうか」（創4:9）——は、たぶん皮肉であり、修辭的なものでした。そして、神の初めの質問に含意される答えは、「まったくそのとおり。お前は弟の番人なのだ」というものでした。

問5 箴言22:2を読んでください。一見すると単純なこの言葉には、どのような意味が含まれていますか。この聖句は、私たちと仲間との人間関係について、何を教えていますか。

私たちが会おう人はみな、神にかたどって造られた被造物の一員であり、（壊れ、破綻しているかもしれないけれど、）神の創造において私たち全員を結びつける関係のネットワークの一部です。「わたしたちはだれでも、人類という織物の中に織り込まれている。罪悪がこの人類の大家族のどこにふりかかっても、その危険は全員に及ぶのである」（『ミニストリー・オブ・ヒーリング2005』331ページ）。好むと好まざるにかかわらず、この共通の結びつきのゆえに、私たちは神とお互いに対して、神から与えられた責任を負っているのです（マタ22:37～39参照）。

聖書の至る所で、神は私たちの創造主であるという主張が繰り返されています。例えば、安息日を覚えることの理由（出20:11）、終末時代に神を礼拝することの理由（黙14:7）の一つが、それです。他者を気遣うことや、恵まれない人の身を案じることの主たる動機も、そこにあります。

私たちはみな、神に起源を持つという共通の絆によって結びついています。だれであれ、「弱者を虐げる者は造り主を嘲る。造り主を尊ぶ人は乏しい人を憐れむ」（箴14:31）のです。そのつながりは、あまりにもはっきりしています。

創造主なる神は、私たちの礼拝、他者に対する奉仕やお世話を含めて、私たちの人生すべてを要求する権利を持っておられます。時として、難しく、もどかし、不都合なことであるかもしれませんが、私たちは確かに「弟の番人」なのです。

◆ 神が創造主であるという主張は、なぜ聖書の至る所で繰り返されているのでしょうか。なぜこのことは重要であり、この事実は、私たちの他者への接し方にどのような影響を及ぼしますか。

参考資料として、『人類のあけぼの』第2章「天地創造のいわれ」を読んでください。

『神は愛である』……。神の性質、神の律法は愛である。それは今までもそうであったし、これからも同じである。『いと高く、いと上なる者、とこしえに住む者』、その『道が永久』である方は、お変わりにならない。彼には、『変化とか回転の影とかいうものはない』……。

創造の力が現されているものは、すべて、神の無限の愛の表現である。神の統治は、すべての造られたものへ、豊かな祝福を与えることを意味する（『希望への光』13 ページ、『人類のあけぼの』上巻1 ページ）。

「もし人間が、主の持ち物の忠実な管理者としての義務を果たすなら、パンを求める叫び声も、貧しさで苦しむ人も、裸の人も、欠乏する人もいなくなるだろう。人類が陥っている苦しみの状態をもたらしているのは、人間の不忠実さなのである。……神は人間を御自分の管理者としてお造りになったのであり、人類の苦しみ、悲惨、裸、欠乏のことで、神が非難されるべきではない。主はすべての人のために十分なものを備えられたのである」（『福祉伝道』16 ページ、英文）。

話し合いのための質問

- ① 金曜日の最後の引用文を注意深く読んでください。エレン・G・ホワイトは何と言っていますか。私たちが目にする貧困の責任の大半は、究極的にだれにあると、彼女は言っていますか。このことは、忠実な管理者であることの重要性について、私たちに何を教えていますか。
- ② もし私たちが会った人に、この人も「神にかたどって造られ、神に愛されている」ことを思い出させるしるしを見るなら、私たちの他者との関わり方、接し方は、どのように変わりうるでしょうか。

まとめ

神は、良い世界、完全な世界を創造し、御自分にかたどってお造りになった人間たちに、被造物を「耕し、守る」よう命じられました。罪は、神が私たちのために本来意図された関係を破壊しましたが、私たちは今もなお、被造物の良さを管理し、仲間の人間の世話をする者として果たすべき役割を持っています。この役割を果たすことは、創造主として神をほめたたえる一つの方法なのです。